

## スペシフィック・カイロプラクター 高橋祐一郎のつぶやき

### 目次

【挨拶】 .....	p.1
【気づいてください！】 .....	p.2
【どうして生きていられるのか？】 .....	p.3
【病院で病気が治るのか？】 .....	p.5
【薬は毒！らしい】 .....	p.6
【生命エネルギー】 .....	p.7
【先天的知能】 .....	p.8
【自分の身体は自分が治す】 .....	p.11
【自己管理が肝要】 .....	p.17
【ストレス】 .....	p.18
【終わりに】 .....	p.19

### 【挨拶】

今日は上部頸椎専門のカイロプラクター高橋祐一郎です。

これから話すことは、基本的にカイロプラクティック哲学の33の根本原理とスピリチュアルの本などをベースにしています。スピリチュアルの本は沢山ありますが、特に参考になっているのは、五井昌久氏の本とラマナ・マハルシ氏及びニサルガダッタ・マハラジ氏の本です。

ここで私の精神的支えとなってくれている恩師を紹介しておきます。沢山いますがその中の主な方々です。

古い順に

- ・五井昌久師
- ・賀来史同師
- ・B.J.パーマー師
- ・Dr. E.L.クラウダー師

- ・中村天風師
- ・シュリー・ラマナ・マハルシ師
- ・ニサルガダッタ・マハラジ師

どうしたら患者さんたちは気づいてくれるのだろうか？

分かる人は多くはない。何で分かってももらえないのだろうか？

どれだけ説明すれば分かるのだろうか？

この施術を受けて身体が改善されているのにも関わらず、どんなに説明しても西洋医学依存症は変わらない。

理解しようとししないのは何故だろう？

何のためにこのオフィスに通われているのだろうか？

こんなつぶやきがこれから書く文章の動機になっています。

### 【気づいてください！】

いきなりですが、皆さんは気づいていますか？

人間の長い歴史の中で、皆さん自身が誰よりも一番賢いということを知っていますか？

皆さん一人一人は、例えばアインシュタインよりも賢いのですよ！優れているのです。

どういうことかと言うことを、これから説明していきます。

こういうことを知ると知らないのでは、長い人生において大きな違いが出ると思います。

知ることによって、きっと一生の人生を安心して暮らせるようになるでしょう。

逆に知らないことで不安や恐怖を引き起こし、そのことをマスコミや他人からの情報で煽られて、さらに気持ちを落ち込ませてしまい、そして皆さんの「実体」と比べれば、比べものにならないほど劣る、能力のない他人に依存しすぎることになってしまうのです。

「実体」については今までも多くの聖人や賢者によって伝えられてきているのですが、一般的には普及していないし、なかなか教わる機会がないのが実状です。

神や仏は見たり触れたりできません。しかしながら、大昔から信仰の対象になっています。

同じように皆さんの「実体」も、目には見えないし触ることもできませんので、それですから目に見えて、触れることもでき、匂いがあるって感覚のある現在の身体だけが自分だと思ってしまうのです。

神や仏を信仰する事も善いのですが、自分の実体にも気づいて信仰すると善いのです。

そこで、本当に今の身体が、今の思考する脳が、皆さん自身なのでしょうか？  
心の場所は特定されていません。心というのはどこにあるのでしょうか？  
というようなことをまず考えてください。

実体については聖者たちと違った説明の仕方になりますが意味合いは同じです。  
ちなみに四国お遍路の弘法大師との【同行二人】を私なりに言えば、一人の身体の中に二人  
がいて、そのうちの一人は肉体の人間で、もう一人は目に見えない実体のことだと、私は解  
釈しました。長い人生を目に見えない実体と共に二人で生きていくということです。  
今考えている方の頭脳をカイロプラクティックでは「後天的知能」と言います。生まれてか  
ら培う自分です。一般的には「自我・エゴ」、シュリー・ラマナ・マハルシ氏はこれらをま  
とめて「私という想念」と言われています。

これからいろいろつぶやいて説明するのですが、鵜呑みにしないでください。それらのこと  
を皆さん自身の頭で考えて、本当にそうなのかどうかを判断してください。  
そのように自分で判断することが、正しい選択をしていくことができる基本になるのです。

皆さんが当然のように受け入れている西洋医学についても、ただ受け入れるだけでなく、何  
が正しくて、何が正しくないかを区別して、それから受けることをお勧めします。  
そういう考える癖を普段からしていないと、やらなくてもいい検査（骨折していなくても痛  
みがあるとレントゲンやMRIなどを受けるなど）や必要のない治療を受けてしまい、やり  
たい放題のことをされてしまうこともあるようです。

西洋医学については近年多くの医師の方々が異論を唱えていて、その危険性を本にして出  
版されています。そういう本を購読して、皆さんが通院して受けている医師たちとの違いを  
検討され、判断するべきだと思います。

それでは始めます。

### 【どうして生きていられるのか】

皆さんは生きています。  
どうして生きていられるのですか？  
どうして成長できたのですか？  
考えたことがありますか？  
食事をしたからだけではありませんよ！

食べることも要因ですが、その食事をすることができるのは何故ですか？

それでは他の質問をします。

皆さんは身体を持っています。そして動いています。

誰がこの身体を動かしているのですか？コントロールしているのですか？

お医者さんが皆さんの身体を動かしているのですか？

クスリが動かしているのですか？

当然ですが医師でもなければ、クスリでもありませんよ。

病気でないときにはすべて自分がコントロールしている身体を、それなのに、他人の身体を動かすことのできない医師が、病気になると皆さんの身体をクスリでコントロールするのです。

可笑しくないですか？ 変だと思いませんか？ 普通は気づかないことです。

自分でやっているという人がいますが、ある意味その通りですが、では想像してください。

皆さんが赤ちゃんだったときは、あんなに小さかった身体が、今はこんなに立派な身体になっています。

皆さんはどのようにしてこのような立派な身体を創ったのですか？ そして今でも身体を維持していますが、どうして身体を維持することができるのですか？

皆さんが“自分”でやっているのですか？

考えたことがありますか？ 考えてください！

物を見たり、話をしたり、音を聴いたり、匂いを嗅いだり、そのような凄いことができるのは何故でしょうか？

指を動かす事だけでも凄いことなのですが、身体を動かしたり、食べ物を嚙んだり、飲み込んだり、何故、いろいろなことができるのですか？

どうして食べた物を消化して、吸収して、血となり肉となり、骨となり、今現在もこの身体を維持していただけるのですか？

そういうことを普通にできていることを凄いと思いませんか？

ほとんどの人たちは普段おそらく考えていないことですが、そのようにしていただけることは本当に凄いことなのですよ！

私たちは、生まれてから寝て起きて食べて、毎日当たり前に生活しているので、このようにしていただけることが凄いことだということを、ほとんどの人は考えることがないのです。

しかし実際に皆さんは、毎日の瞬間々を実に凄いことをして活動しているのですよ。

ところが、皆さんはどんなに凄いことか気づいていないのです。

この毎日の普通に活動してられるそんな凄いことを、誰がしているのですか？  
皆さんが考えて、そのようにしているのですか？ 自分で動かしているという人に伺いますが、自分の身体ならば、身体全身をすべて管理し動かすことができるのではないのでしょうか？ どうですか？

しつこいのですが、再び伺います。

皆さんがすべてのことをいちいち考えてしているのですか？

何回も同じようなことをしつこく繰り返し言うのは、【考えてほしいから】です。

普通の人たちは生まれてから自然に身体を動かして当たり前で生きていますので、何も考えないでいますが、身体の中では本当に凄いことが為されているのです。この凄いことが当たり前すぎて、この「なぜ・どうして」の根本をほとんどの人が知らないようです。

知らなくても生きていられるのですが、知った方がよりよい人生を送れるようになると、私は思うのです。

私も生まれてから40年以上も知らなかったのです。西洋医学の基礎を学んでも、東洋医学をかじっても、宗教やスピリチュアルの本を読んでもそんなことを教えているモノはないし、それで知ることはできませんでした。長年生きていても分からなかったのです。それでもおぼろげながら、どうして生きていられるのかと考えたこともあったような気もしますが、ほとんど記憶にないほどです。考えてもわからなかったからでしょう。深く追究することをしませんでした。

ところが、42歳の時に上部頸椎専門カイロプラクティックの賀来カイロプラクティックスクールに入って、カイロプラクティックの33の根本原理という哲学を習って、この生命の根本的な事実を知らされたのでした。

このことを知ったことでいろいろなことが分かってきました。そして西洋医学の治療も、かなりの部分で必要がないことも分かってきました。

### 【病院で病気をなおせるのか？】

病院で病気をなおせるのか？このことを真剣に考えてください。

特に長年の間病院へ通って病気の治療を受けていても、病気が治らない人たちは考えるべきでしょう。

「医療の9割は必要がない」と言われる先生方もいます。必要な1割とは救急や手術などの命に関わるものです。

一般的な慢性病などで10年も20年もクスリを飲み続けていてもクスリをやめられないで、慢性病だからしょうがない！ などと言っているでもいいのでしょうか？

そのように思っている人たちは何かが欠けているのかもしれない。

例えば、自分に甘いかもしれません。そういう人たちは自分の生活を見直す事をまず始めてみてください。どこかに改めなければいけないところがあるはずですよ。

**ところで、皆さんは病院や医師に対して過大評価をしていませんか？**

クスリを飲み続けているということは、皆さんの病気をクスリが治せないという証明ではないでしょうか。そう思いませんか？

病気が治ればクスリは要らないのです。

つまり病院ではほとんどの病気、特に慢性病は治せないということが言えるのです。

そうではないですか？

先ほども紹介しましたが、多くの医師の方々がそのような事を執筆されています

しかしながら、西洋医学が危険であると書かれているそのような本を読んでも皆さんには自分の身体に対しての自信がないので、そうかな!?とは思っても病院を頼ってしまう人が多いのも事実です。つまり、自分の本体・実体を知らないからです。

### **【薬は毒！らしい】**

薬は毒だということです。内海聡医師のかかれた「断薬のススメ」(KK ベストセラーズ)の表紙にはっきり書かれています。他にも多くの医師たちが毒だということを言われています。そのように言われても製造している側から反論がでない、裁判にかけないということは事実なのでしょう。

皆さん、毒だということを知っていましたか？薬を飲んでいる人たちは毎日毒を飲んでいることになるのですよ！しかも、病気を治せない薬で、です。

しかし、ここでも可笑しいと思うことがあります。私の患者さんの中には、毒を承知で飲み続けている人たちもいます。私としては何をか言わんや、ですが、その人たちの自由意志ですから、それ以上は言えません。このような人たちはよほど病院信仰が深いのでしょう。信仰の自由を妨げることはできませんが、改宗されることを願うばかりです。

人間の身体の構造は昔も今もほとんど同じですが、昔は西洋医学もなく、一般の庶民は病気になっても病院にもいけず、医者にもかかれず、それでも生き延びてきました。

現代は、病院と医師が生活環境のすぐ近くにあるので少し体調が悪くなるとすぐに病院を訪れて受診をしますが、皆さんが信頼しているほど、本当に病院や医師が皆さんの身体を健康にしてくれるのでしょうか？

私の患者さんたちの話を聞いても、例えば腰痛に対して、レントゲンやCTやMRIなどで視覚的に見てはくれますが、見てくれてもそこを治してはくれないようです。よほど悪けれ

ば手術をしてくれますが、一般的にやってくれることは、クスリを出す、湿布をくれる、注射をしてくれるということです。牽引をしたり、リハビリなどもしてくれますが根本的な治療にはならないようです。

クスリや湿布そしてブロック注射などは単に痛みを抑えることしかしていないのです。

話がそれましたが、誰が身体を支配しているのか、これを知ることは、本当に大切な基本なのです。

その哲学を徹底して遵守し追求しているのが日本上部頸椎カイロプラクティック協会（JSCA）です。

話を戻しますが、私たちは脳と神経があるから先ほど質問したすべてのことができるのです。

なんだ、そんなことか、と知ったかぶりをするとおもいますが、しかし考えてください。

死んだばかりの人にも脳と神経は残っていますよ。

では死んだ人は何故何もできなくなってしまうのですか？

このことをどう思いますか？

つまり、脳と神経系統だけでは身体は動けないのです。

電気器具が動くのは何故ですか？器具と電線だけでは動かないのです。そうです。電気エネルギーが電線を流れて器具を動かすのです。

ここも重要なポイントの一つですが、私たちの身体が動くのは、生きている間は生命エネルギーが脳と神経系統を通して身体の中を流れているからです。

電流の流れが妨害されれば電気器具に不具合が出ます。

身体も同じです。生命エネルギーの流れに伝達妨害が起これば、その部分の器官などが不具合を起こすのです。例えば心臓へ行くエネルギーが低下すれば心臓に異常が起きるのです。

## 【生命エネルギー】

ほとんどすべての人たちは、生きているために必要な生命エネルギーなどというモノを普段は気にもかけずに、当たり前生きています、ですが、その気にもしないソレが本当は重要なのです。生命エネルギーが身体を動かしている動力なのです。

死ぬと、ソレが流れなくなるので、何もできなくなるのです。

生命エネルギーはただ漠然とあるものではありません。

宇宙にはエネルギーが満ちています。

その宇宙のエネルギーを伝達する中継所というか電気でいえば変電所にあたるようなモノ

があるのです。その生命エネルギーを創る元をカイロプラクティックでは先天的知能、イネイトインテリジェンスといいます。普段私たちは「イネイト」とっています。

### 【先天的知能・イネイトインテリジェンス】

先天的知能・イネイト！さらに考えてもいないでしょう。生命エネルギーを創る元ですから最重要ということです。

実は見えない本当の自分、つまり「実体」のことです。普通の人たちは気がついていない、真実の自分、真実の実体です。

ちなみにインドの聖者、シュリー・ラマナは「真我」と言われています。少しイネイトとニュアンスが違いますが実体であることは同じです。

イネイトは精子と卵子が合体したときに宿ります。そして、母親の母体を借りて私たちの身体の細胞を創りながら身体を成長させます。

私たちの身体は生まれる準備ができたところでこの世に出てくるのです。

生まれてからはイネイトが脳で宇宙のエネルギーを生命エネルギーに変換して製造します。イネイトによって造られた生命エネルギーはつねに100%あります。減ることも増えることもありません。

イネイトは製造した生命エネルギーを神経系統を通して全身に供給しながら成人で約60兆といわれるほどの細胞を創り上げていくのです。

皆さんの身体は「イネイトが身体を創り上げて、死ぬまでイネイト自身の身体をイネイトが細胞を創り替えながら、そして壊れたところを修復したりして維持しているのです。」先ほど質問した答えがこれなのです。

皆さんの身体は、実は「イネイトが支配しているイネイトの身体」なのです。

皆さんの頭脳ではないし、もちろんお医者さんではないのです！

皆さんのイネイトはどんなに才能のある頭の良い人よりも凄いのです。優れているのです。

皆さんの頭脳が凄いではありません。冒頭で言った「皆さんはどんなに優れた人よりも賢いのです」とは目に見えない皆さん自身のことです。先程の【同行二人】とはこのことを言っていると解釈したのです。

とにかく皆さんの内在の叡智であるイネイトが凄いのです。全知全能なのです。

皆さん自身の中に全知全能のイネイトが働いてくれているのです。

どんなに優れた人でも細胞を作れないのです。

人間の知能はイネイトからみれば、どんなに頭の良い人でも悪い人でも、五十歩百歩、すなわちドングリの背比べでしかないのです。イネイトと比較すれば雲泥の差。月と鼈、それ以

上に違うのです。

今考える事ができているその脳もイネイトによって創られたのです。私たちの脳とは次元が違うのです。

何度も繰り返しますが、人間は細胞を創ることができないのです。私たちは自分自身がどれほど凄いのか実感するべきだと、私はつくづく思います。

イネイトに気づけば、イネイトに身体のご事は任せられるようになります。

いわゆる自然治癒力です。

イネイトを確信できれば身体に対する不安がなくなるのです。

B.J.パーマー博士は「カイロプラクティック・哲学・科学・芸術（賀来史同監訳、十菱麟訳・エンタープライズ）」のなかで、『『神の国は汝らの内にあり』』とされています。「確かにその通りです。先天的知能こそは、かの偉大な『われはありてあるものなり』です。イネイトこそ、ありとあらゆるものの内的本源であります。」とされています。

大多数の人たちは自分の身体が内在の叡智であるイネイトのモノだと聞けば混乱するか、「何を言っているのだ」と思うでしょう。

冷静に考えてください。

あなたの頭脳では人間の細胞を作れません。細胞一つでさえも作れないのです。

イネイトは生命エネルギーを死ぬまで 100%造り続けます。増えることも減ることもありません。

イネイトは全身の細胞を創り変え（新陳代謝と言われている）ながら、生命エネルギーを脳から神経系統を通じて全身に供給し行き渡らせます。そして全身の細胞、組織、器官を動かし、機能させるのです。また傷害を受けた全ての細胞、組織、器官を修復するのです。

西洋医学では、例えば打撲を受けた患部を「炎症」といって消炎鎮痛剤を使いますが、炎症は患部を治癒させる過程なのです。

炎症も生命エネルギーを正常に伝達させて自然にしていれば時間がたてば肉体の限界を超えていなければ自然治癒していくのです。

生命エネルギーが、身体のすべての活動を可能にさせているのです。それだから、私たちは考えることができ、見たり、聞いたり、話したり身体を動かすこともできているのです。つまり脳からの生命エネルギーが神経系統を通して流れなければどんなに努力しても何もできないのです。

神経系統に問題が起きれば、いかに偉い学者や科(化)学者、医学者であろうと、他人の指どころか、自分の指一本さえも動かすこともできないのです。

ほとんどの人間はこの基本、この重大な事実気づかずに生活しています。

どんなに立派な素晴らしい物を発見したり、作ったりできても、それができることを可能にしているのはイネイトの生命エネルギーが身体を流れるからなのです。

B.J.パーマー博士は言われています。「人間が自分でおもっているあらゆる考えは、イネイトから大ざっぱに盗み出したものです。」

「イネイトは知識と力の座であるばかりでなく、無尽蔵の富の宝庫であることを忘れないようにして下さい。」

般若心経でも、「色即是空、空即是色」、つまり現象界は固定的実体がなく空であり、逆に固定的実体はないが、空であることで万物を包括している、ということなのです。

このことを肉体に当てはめると、目に見える肉体は固定的実体ではなく、目に見えないイネイトがすべてを包括していると言えるのです

この一番の大元の基本を考えずに、人間は自分で何でもできると思い込んでいます。知識のある人たち、勉強をした人たち、そして特に唯物主義者たちはこの思いが強いのではないのでしょうか？

あなたがどんなに反論しても、その反論する力を生み出す原点は【イネイトであり、生命エネルギー】なのです。これをなくして、考えるどころか生きることができないのです。何でもできると思っている人たちも、このことをよく考えてください。

この生命エネルギーが正常に全身に流れていれば、身体は正常に機能するのです。

しかし、神経伝達の妨害が起きると、その神経支配の領域の機能が低下します。そして症状が発生するのです。

神経伝達の妨害が自律神経に影響すれば、その支配領域に症状が出るのです。

先ほども書きましたが、例えば、心臓を動かしている神経に妨害が起きれば、心臓の機能が落ちるのです。肺でも腎臓でも胃でも腸でもどこでも生命エネルギーが正常に伝達されなければ、その部位の機能が低下します。

また体幹や四肢の神経伝達の妨害も、妨害されたその部位に影響が出るのです。例えば、痛みであったり、しびれであったり、ひどく妨害されれば機能が麻痺してしまうのです。

極端な例では、事故で脊髄損傷を起こしてしまえば、その下部組織は麻痺して機能不全に陥るのです。

## 【自分の身体は自分が治す】

西洋医学では、それぞれに病名をつけますが、上部頸椎カイロプラクティックでは、病名病気、症状にとられることなく、生命エネルギーの伝達妨害の原因だけをアジャストメントして生命エネルギーを正常に伝達できるようにするのです。

そして、伝達妨害がなくなるところから、イネイトの身体はイネイト自らが治していくのです。

寿命があれば、あるいは肉体の限界を超えていなければ、イネイトは時間をかけて自然に身体を修復するのです。

スペシフィック・カイロプラクターは人の身体を「治してあげる」ことはできないのです。上部頸椎のサブラクセイション(神経伝達妨害)を取り除くことだけしかできないのです。

治療家や医師たちの中には「病気を治してあげる」と言う人がいますが、他人の身体を治せる人はいないはずで。とは言えイネイトや生命エネルギーのことを知らないのではしかたありません。

このことを知っている私たちは恐れ多くて、とても人の身体を治してあげるなどと言うことはできません。

「自分の身体は自分が治す。」このことをしっかりとつかんでください。

何度も繰り返しますが、人間は細胞を創る事ができません。他人の皮膚のたった一つの擦り傷でさえも治せないのです。

皆さんは傷が自然に治ることを知っているのに、その傷を治す凄い能力が自分の身体全体を治すことは知らないのです。そもそもそれ以前に、傷が治ることを凄いと思う人は少ないのではないのでしょうか？

内臓が悪い人の臓器の細胞を創り、内臓を元のように治せる人はいないと思います。

近年は科学が発達して iPS 細胞というものを増殖して、臓器に移植するそうですが、移植はできてもその後のことは、先天的知能・イネイトが生命エネルギーを使って臓器を治していくのです。成功するか否かは先天的知能次第なのです。

イネイトに生かされている他人であるところの「人間の先生」ができることではありません。すべては「自分・イネイト」なのです。

何はさておき「自分の先天的知能の、凄さ、素晴らしさ、自分の身体の事に関して全知全能」に気づいてください。

「人間の先生」は他人の身体を手術して、切ったり縫ったりすることはできても、傷を治すことはできません。血圧や血糖、そのほかのことも治すことはできません。クスリを使って数値を管理してコントロールすることはできても、その数値を正常な状態に保つことはで

きないのです。その証拠にクスリをやめてしまうと数値があがってしまいます。つまり、クスリで抑えているだけです。治しているのではないのです。

クスリは神経伝達を正常に戻すことはできません。

ですから身体は健康になれないのです。

病気のことと言えば、皆さんは、病気はお医者さんが治してくれると信じている人が大半ですが、いつからこのような信仰が横行し始めたのでしょうか？

「信仰」と書いたのは、ロバート・メンデルソン医師の著書「医者が患者をだますとき」のなかで「現代医学教」と断じて、「現代医学教」は生と死、それに肉体に生じるあらゆる生理的変化という、最も不可解な現象を扱っていることになる。」と記述されていますが、要するに、現代社会の人間たちは気づかないうちに、いつの間にか現代医学教の信仰をしているということです。

人間は自分の肉体の神秘的な部分を知らないために、人々は不安になり何かにすがりたくなる、それに対して医学では科学的に論証を構築して、納得させ人々を引き込む。

昔のことは全くわからないのですが、大昔は祈祷などをして病魔を撃退していたということを知ったことがあるのですが、その後、漢方薬や民間療法で病気を治癒させていたのでしょうか？

そういう方法で病気が治るのであれば、それらの方法がもっと一般に広がっているはずではありませんか？

現代では西洋医学が主流になって病気の治療をしているのですが、本当に病気を治癒させているのでしょうか？

人々のためにしていることが、逆に悪く働くことも多々あります。例えばレイチェル・カーソン著「沈黙の春」にもあるように、作物を害虫から守るために作られた DDT や農薬によって本来の生態系が壊されてしまうようなこともあるわけです。

人体においても化学物質は体内の生態系のバランスを崩す作用で、様々な症状を引き起こす可能性は否めません。

他のところでも書いているのですが、クスリで病気が治せるのなら病気はすでになくなっているはずですよ。

その一つの証拠に西洋医学が日本に入ってきた明治時代に西洋医学者たちは東洋医学を排斥したのです。その排斥した東洋医学を現代西洋医学は取り入れるようになっています。特に漢方薬を使う先生が増えているようです。

これは、西洋医薬の効果がないためか、副作用が強いためか、病気を治せないことの一つの証拠ではないでしょうか。

かといって、漢方薬が病気を治癒させるともいえないようです。

元新潟大学大学院教授・故安保徹医師の「病気にならない免疫生活のすすめ」(中経の文庫)

には「薬で病気が治るのだったら、こんなに楽なことはありません。」と書かれています。

西洋医薬や漢方薬で病気が治ればそれ以上別のクスリは要らないのです。それなのに、次から次へと新薬が作られています。

以前から疑問に思うことは、次から次へと新薬が出るということは、古いクスリを飲んでいた人たちは何のためにそれまでのクスリを飲んでいたのでしょうか？

新薬を作らなければならないということは、安保先生の言われることが正しいことを証明しているようなものです。つまり、それまでのクスリは効果が薄かったのか、全く効果がなかったからではないのでしょうか？

がんの治療に関しても次から次へと新しい方法が開発されていますが、どれが正しい治療なのでしょう？

西洋医学の治療は、どれもこれも手を替え品を替え、目先を変えて変化し続けています。

治療が変化するという事は正しい治療法が定まらないことになりませんか？

もしも、全く効果がないのであれば、クスリや治療で治ると信じている人たちは考えを改めなければいけないのではないですか！？

そのことをどの様に考えるのでしょうか？

あるいは、何も考えないで、「溺れる者は藁をも掴む」のたとえのように、とにかく何かにすがりたい、頼りたいということでしょうか？

今まで長い間受けていた治療に効果がなくても、それを考えないで同じことを繰り返すのですか？

ちなみに、船瀬俊介氏の「病院で殺される」（三五館）には、「よくぞ誤魔化し続けてくれました！」と書かれています。

内海聡医師は「医学不要論」（三五館）という本を出されています。

今までと同じようなことを繰り返す人たちはどこかで思考の仕方を変えなければ、長い人生のなかで沢山の不利益を避けられないことになるかも知れませんか？

よく考えてみてはどうでしょうか？

他人に依存しすぎているのではないのでしょうか？

騙され易い人になっていませんか？

岡本裕医師『9割の病気は自分で治せる（中経文庫）』で言われるように「おいしい患者さん？」になっていませんか。

古代からのどんな治療方法でも同じです。

どんなに優れた治療をしても、基本であるところの生命エネルギーが流れなければ生きていくことさえできないのです。

整体などは、その部の神経伝達を良くするという意味ではクスリよりは効果があるかもし

れません。ただし、逆に頸椎のズレを起こしたり、肋骨などにヒビが入るような危険性も伴いますが。

考えてください。

病気が治ったらどのようなクスリでも、クスリは必要なくなるはずで

健康なときにはクスリは飲まないのです。

西洋医薬で、例えば血圧のクスリに関してよく聞くのですが、「血圧のクスリは一生飲み続けてください」と言われるそうです。

これについて皆さんは疑問を持たないのでしょうか？

一生飲まなければいけないということは、「高血圧を治さない」と言われているということになりませんか？

その時点で高血圧は治しませんと宣言されたようなものと私には思えてしまいます。

先ほども言いましたが、「血圧が正常に治ったらクスリは必要なくなるのです」

血圧だけではありません。他の慢性病も同じです。

皆さんは考えないでしょうか、血圧が上がる理由はさまざまにあります、一般的には普段の生活における自己管理が為されていないからです。自己管理は健康な身体を維持するためには、すべてに通じます。

例えば、たばこの吸いすぎ、暴飲暴食、生活の不規則、睡眠不足、運動過多、激しい労働、食事の影響、精神的ストレス、クスリの副作用、等々。

血圧も含めて、他の検査で出る異常な数値も、身体が出している危険信号です。つまり上記のような事を改善してくれと身体が数値で教えてくれているのです。

ところが、西洋医学では生活の改善より先にクスリで数値を管理しようとするのです。

椎間板ヘルニアに痛み止めを出して痛みを抑えると同じように、高血圧を治すのではないのです。数値を上がらないように抑えてしまうのです。

とは言え、クスリを出す方だけが問われる訳ではありません。一方の患者さん側も改善する努力が足りないのです。中にはまったくしない人たちもいるようです。

クスリを飲む人も、自己管理をしない人も若い時には体力もあるし、自浄作用もあるので、多くの場合はすぐに深刻な問題が起きない人たちもいますが、高齢になると体力は低下し、自浄作用も弱まりますから身体にいろいろ不調が出てきます。そうなると、大変つらい人生が待っています。若いときにはそんなことは気にしないのですが、それが結果的に病気につながるのです。

自浄作用も年齢相応にあるのですが、神経伝達の妨害がその作用も低下させてしまうのです。

病気になってからでは遅いこともあります。昔から「転ばぬ先の杖」という言い伝えがあるように、若いときから老後に備えての毎日の生活習慣が重要なのです。

体力があつて全く健康に生きていて豪放磊落に我が世の春を満喫していても、ある瞬間から脳卒中や心筋梗塞を発病して、中には半身不随になってしまうことがあるのです。

こうなつてから病院通いが始まりリハビリテーションを続けながらクスリを服用してなんとか元に戻ろうと努力をしますが、なかなか元通りにはなりません。発病以前は元気だっただけになおさら辛い思いをしてしまいます。

元に戻る努力をしても、クスリに依存しすぎると、その副作用で自然の治癒過程を妨害してしまう可能性がでてしまいます。

クスリには毒性があり、すべてのクスリに副作用（毒が影響するなら毒作用か？）が起きる可能性があることが公表されています。医師の方々の中には、体温を低下させ、免疫力を落とし、また交感神経を緊張させて自律神経のバランスを崩す作用があると忠告されています。自律神経のバランスが崩れれば体調を正常に管理できなくなるのです。ですから、さらに病人状態に陥るのです。

これでいいのですか？

西洋医学に依存している人たちは、病気は医師が治してくれると深く信じているのです。中には血圧が 110 まで下がっても担当医にクスリをやめないでと言われて飲んでる人もいます。

あまりにも血圧を下げすぎれば脳に送る血流が悪くなるのでフラつきやメマイがでます。また脳の働きが悪くなり認知症になるとも言われています

「現代では医者病がつくっているのだ。現代の多くの病気は、かかるのではなく、医者がつくりだしているといつても過言ではない。」と『開業医の嘘、大病院の罟（光文社）』のなかで富家孝医師がいられています。

とにかく、多くの人たちは自分の身体に自信がないので、不安で、不安で仕方がないのです。少し体調が悪くすると病院に駆け込みなんとかしてもらおうとします。些細なことでも何かあるとすぐに救急車を呼ぶ人たちもいるようです。

いずれにせよ基本を知らないわけです。それに加えて、日常における自己管理をしっかりしていないからとも思われます。

「他人は他人の身体を治すことはできないのです。」「自分の身体は自分が治す。」これが基本です。

上部頸椎カイロプラクティックは単純に頸椎の 1 カ所だけを調整するだけです。ただ、人々は単純だと心配になるのです。複雑なことをしてもらふことで安心してしまうのです。

よく聞くとおもいますが、本当はシンプル・イズ・ベストなのです。

クスリでもそうですが、症状の緩和をさせて楽にすることはできても、根本的に治癒させることはできないのです。

症状を緩和させ楽にはなっても、そのことで危険信号を無視させてしまう事も多々あります。

気を付けなければいけないことです。

一般の人たちは、自分の身体を創り上げた「真の自分・イネイト」のことを知らないから、「生命エネルギー」のことを知らないから自信が持てないのです。

それに加えて、自己管理をしっかりしているという自覚がないから不安になるのです。

イネイトや生命エネルギーのことを、カイロプラクティックを通じて知ることができた私はつくづく幸運だと思うわけです。「私の身体は肉体の限界を超えなければイネイトが治す、また寿命までは、私のイネイトが治す、生命エネルギー・自然治癒力が治すのだ！」と自信を持つことができたのです。

イネイトが治せる限界を超えるとは、つまり肉体の限界というのは、例えば交通事故などで、骨や肉体に大きな損傷を被ったときなどをいいます。

痛みに関しても同じです。痛み止め、鎮痛剤、ブロック注射、痛み止めの入った湿布、どれも痛いところを治癒させてはいません。字の通り「痛み止め」です。痛みは脳が知覚するのです。先ほど羅列した薬はすべて、脳が痛みを知覚する部分を感じなくするように、痛みを抑えているだけです。

症状を緩和させるだけのことを「治療」といえるのでしょうか？「治す」といえるのでしょうか？

広辞苑には「治療」は病気やけがをなおすこと。と記載されています。

病気やけがを緩和させること、楽にすることとは書かれていません。

責めるのではないのですがおそらくこの違いに編集者も気がつかなかったのでしょうか？

肉体の限界を超えた部位に関しては手術も必要なこともあります。その後のことは身体が本来持っている自然治癒力が治すのです。

\*ここで中村天風氏のことを書かせてもらいます。

天風氏は肺結核にかかり、自ら医師になるためにアメリカで勉強して医師の免許を取り、西洋医学で病気を治そうとしましたが、まったく良くなり、ヨーロッパにも行きいろいろ治療をされたのですが良くなり、帰りの船の中で出会ったインドのヨガの聖者に指導されて自らの治癒力で病気を治癒させた経歴を得たのです。まさに、自分の身体を自分で治した典型的な事例です。

## 【自己管理が肝要】

何度も繰り返しますが、自己管理も重要です。

病気を治癒させるのは、病気になった本人がすることです。

生命エネルギーは自然治癒力を完全に備えています。

生命エネルギーが 100%伝達されていれば治癒する時間も速いのです。

ただし、個人的な考え、生き方がその人によっては回復に影響を与えることも大いにあります。

イネイトに沿った自然な考え、素直な生き方をしている人ほどよい条件を備えているのです。

ストレスがあつたり、不安があつたり、薬物に頼つたり、他のことでも、自己管理に問題がある人ほど、身体の善い働きを妨げてしまい負担をかけて治癒する過程も遅くさせてしまいます。

B.J.パーマー博士は“自然は助けを必要としない”と明言しています。その通りです。当然のことですが自然は人間の手が入れば入るほど“自然”ではなくなるのです。

自然の生態系を破壊してしまうのです。

人間においても同じです。人間という、イネイトが創り上げた自然の身体は、自然の生態系を身体の中で維持しているのです。

その自然の状態のままであれば「自然は助けを必要としない」というように自然に身体を回復させるのです。ただし、肉体の限界や、寿命という限界を超えるまでは。

また、人間の場合は先ほどいいましたが考え方生き方が作用しますから、そこを自分で管理することが必要になります。

この自己管理は本当に大切なのです。他人は自分のためにモノを食べたり、水分を取ったり、運動したり、睡眠をとったり動いてくれません。自分の身体は自分で運営するしか無いのです。

精神的なことでも同じです。相談相手にはなってくれますが、最終的には自分が決断して物事を処理するしかないのです。

脳で造られた生命エネルギーは常に 100%であり、それが神経系統を 100%流れ続けていれば健康を保てるのです。

人間が不健康になり、病気を発生させるのは原因があるわけです。

その一つが、生命エネルギーの伝達妨害によるものです。伝達妨害をなくすのは、精錬された上部頸椎専門のスペシフィック・カイロプラクターが苦もなく調整してくれます。

苦もなく調整できると書きましたが、それを可能にしてくれたのは、苦もなくできるようにしてくれたのは、何十年もの間、途方もなく厳しい研究とそれを成し遂げてくれた上部頸椎

カイロプラクティックの創始者である、B.J.パーマー博士やそれに携わった先駆者たちがいたからです。

私たちはこの仕事に従事していて、本当に表現ができないほど凄いことを発見してくれたと思っています。

それで、先生方やスペシフィックカイロプラクティックについて、賛美と驚嘆をし、常々感謝もしています。

病気になる他の原因として考えられるのは、前述していますが、個人個人の考え方や生き方もあります。

生き方、これを自己管理と言い換えてもいいと思います。何度も言いますがそれだけ重要なのです。

## 【ストレス】

上部頸椎に神経伝達妨害があったとしても、日々の生活において規則正しい生活をしていれば大きな病気にはならないと思います。逆に、神経伝達の妨害を取り除いてもストレスが強ければ身体の改善も思うようにいかないこともあります。

難しいのは精神的なストレスからくる不調和です。昔から言われているように「病は気から」つまり、ストレスは身体に影響します。その人にとっての弱点を攻撃するのです。例えば、よく知られているのはストレスによる胃潰瘍です。また最近よく言われるようですが、ガンもその一つに入ります。医師の方々が言われていますが、甲状腺機能低下症、やリュウマチなどにも影響するようです。ということは他の病気もストレスが原因で起きている可能性があるわけですから、ストレスを解消することが重要になるわけです。

ストレスというのは、その人の思い込みということもあると思うのですが、その抱えている問題を違った観点から見てみると意外と解消できるかもしれません。

そしてさらに、考えられる原因は、クスリによる副作用や、サプリメント、食事やドリンク剤に含まれる化学物質、農薬、除草剤、その他様々な化学物質、環境問題などなど、切りがないほどあります。これらが不調和を招いているのであれば、自分自身がそれにできるだけ関わらないようにすること、気をつけることしかないと思われまます。

### 【今回のつぶやきのおわりに】

今までの皆さんの身体に対する常識をもう一度見直してみてもうどうでしょうか？

上部頸椎カイロプラクティックは病気の診断、治療はまったくしません。

治療をしないのです。

治療をしないのに、それなのに受けられた人たちの症状は改善します。 イネイトが治すのです。

それ故に、皆さん自身の素晴らしい内在の叡智である「先天的知能・イネイト」に気づいてほしいと思います。

私の解釈の【同行二人】です。イネイトと肉体人間の共同作業で人生を生きるのです。イネイトは完璧に自分の仕事をなすとげます。一方、今の身体を使っているご自分は自己管理の責任を遂行してください。

以上、浅学な私のつぶやきですので、及ばない点多々あると思いますが、その点をご容赦願います。